

■ 平成 29 年度 第 2 回 いきいき西区ささえあいプラン推進委員会

日 時：平成 30 年 2 月 23 日（金）午後 2 時～

会 場：内野まちづくりセンター 3 階 ホール

（司 会）

それでは、定刻になりましたので、ただいまから平成 29 年度第 2 回いきいき西区ささえあいプラン推進委員会を開催いたします。

本日の司会を務めさせていただきます、西区健康福祉課、課長補佐の相馬と申します。どうぞよろしく願いいたします。

本日の会議でございますが、三富委員から欠席のご連絡をいただいておりますので、ご報告させていただきます。なお、後日、会議録を公開するため、会議を録音させていただきますので、よろしく願いいたします。

はじめに、事務局を務めております健康福祉課長の渡部よりごあいさつを申し上げます。

（渡部健康福祉課長）

皆様、こんにちは。事務局をしております西区健康福祉課長の渡部でございます。

本日はご多忙の中、いきいき西区ささえあいプラン推進委員会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、日ごろ、皆様には、地域福祉の推進をはじめ、さまざまな地域活動にご協力いただきまして、大変ありがとうございます。

さて、今年は近年まれにみる大雪でございまして、ここ西区でも大雪により道路が通れなくなるなど交通障害も発生し、区民の皆様には大変なご不便をおかけしました。特に高齢者の方などは自力で雪かきができず、問い合わせのお電話もちょうだいいたしました。社会福祉協議会では雪かきボランティアの派遣もしておりますが、日中は対応することができないという状況になっていました。

そういう中にご活躍いただきましたのが、やはり自治会をはじめとする地域の力ということとございました。大雪に備えてあらかじめ除雪隊などを結成され、ご対応いただいた地域もあったと聞いております。私ども行政では、今回のような突発的な事態になりますと、細やかな対応をするには限界があります。そういうとき頼りになりますのは、やはり助け合いの精神と地域の力ということなのだなということを、改めて再認識させていただきました。

今日の会議ですが、「みんなで創ろう、だれもが心豊かに暮らせる福祉のまち西区」を基本理念とする「いきいき西区ささえあいプラン」を効果的に推進していくためのものであり、地域の力と助け合いの精神の向上をお願いするものです。委員の皆様におかれましては、地

域の代表として、また豊富なご経験や専門的な知識などを存分にご発揮いただきまして、地域福祉活動がますます活発になりますようお願い申し上げ、簡単ではございますがごあいさつをさせていただきます。本日は、どうぞよろしく願いいたします。

(司 会)

それでは、議事に入ります前に、本日の会議資料の確認をお願いいたします。事前にお配りしました資料のほかに、本日、机上にA4の資料を2枚置かせていただきました。一つは「いきいき西区ささえあいプラン推進委員会事務局名簿」、これは差し替えになりますので差し替えをお願いしたいと思います。それから「支え合いのしくみづくり会議と支え合いのしくみづくり推進員の配置について」は、本日の追加資料になりますのでよろしくお願いいたします。

それでは、事前にお配りしました資料をご確認いただきたいと思います。まず、本日の次第、それから「いきいき西区ささえあいプラン推進委員会委員名簿」でございます。これは、少し変更がございましたので訂正をお願いいたします。上から7番目の東青山小学校区コミュニティ協議会の旭陽子様の所属・役職等が副会長から事務局長に変更になったということで、訂正をお願いいたします。それから事務局名簿、これは先ほど差し替えということで、そのように差し替えをお願いいたします。それから、資料1「『第2次いきいき西区ささえあいプラン』西区全体計画進行管理票」でございます。資料2「重症疾患で急に倒れた方のうち、約6割は〇〇です」という資料です。それから、資料3「日常生活圏域の構成」、資料4の1から4でございます。「日常生活圏域の紹介」でございます。それから最後に、先ほど言いました追加の資料ということになります。皆様、資料はよろしいでしょうか。不足している資料がありましたら挙手をお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

それでは、これから議事に入りますが、ここからの議事進行は、推進委員会開催要綱第4条第2項によりまして、五十嵐委員長をお願いいたします。委員長、よろしくお願いいたします。

(五十嵐委員長)

ありがとうございます。皆さん、こんにちは。五十嵐です。今日もよろしくお願いいたします。

先ほどからもお話があったように、本当に雪で皆さんお疲れのところだと思いますけれども、今日はお集まりいただきましてありがとうございます。私ごとではございますけれども、私の義理の父が、明日、老人ホームに引越することになっておりまして、その前に義理の母が亡くなったりしたもので、高齢者がほとんどの集落といいますか、その町内の中でいかに支え合いということが大切で、しかも難しいということを実感してきております。

そういうことも含めまして、皆さんと支え合いのしくみづくりについてお話を深めていただければと思います。今日は長丁場となりますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議題1の『第2次いきいき西区ささえあいプラン』西区全体計画の取り組みについて」の議題を進めてまいります。はじめに、区役所の実施状況について、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局：黒川係長)

事務局を担当させていただいております、西区役所健康福祉課の黒川と申します。本年もよろしくお願いいたします。

それでは、A3の資料1に基づいて、議題1につきまして話を進めさせていただきます。資料1に載っております事業の説明をすべてしますと、時間的に難しいため、一部、飛ばすような事業が出てまいりますのでご了承ください。

はじめに、1ページ目の一番最初に載っております「地域包括ケアシステムの構築」について、こちらから説明してまいります。こちらは、今、全市をあげて取り組んでおり、地域住民やNPOが中心となって実施していただくゴミ出し支援などの訪問型生活支援サービスや、地域の茶の間の増加に向けて取り組んでいるところです。その結果、訪問型生活支援を実施していただいている団体は、西区内で2か所、地域の茶の間の設置数は、昨年度末には78か所だったものが10か所増えまして88か所となっております。どちらの取り組みも地域の皆様のご理解とご協力が必要不可欠な取り組みです。来年度以降も、こちらの取り組みの推進に向けて、地域の皆様からご理解を深めていただけるよう、啓発事業などに取り組んでまいります。

また、地域包括ケアシステムの推進に向けて西区内の四つの日常生活圏域ごとに「支え合いのしくみづくり会議」を設置しておりますが、こちらの会議については、それぞれの支え合いのしくみづくり推進員が中心となり開催していただいております。それぞれの圏域ごとの特色を踏まえて、課題や問題点などを検討していただきます。こちらは、後ほど、議題の2で生活支援コーディネーターの紹介を含め、取組例を紹介させていただきます。

続いて、資料のNo.2とNo.3ですが、こちらは事業として終了しておりますので、飛ばさせていただきます。

続いて、No.4をご覧ください。「高齢者孤立防止訪問事業」です。こちらは、昨年度までは「孤立ゼロ作戦訪問事業」という名称を用いていました。訪問対象者を、75歳以上の高齢者世帯のうち、配偶者を亡くされたり、長期入院となられるなど新たに一人暮らしになられた方、その中でも特に介護サービスなどを受けておられず、孤立が懸念される方に絞っております。この事業により必要なサービスや情報の提供を行い、地域とつながりがもてるよ

う支援を行います。今年度の見込みとしましては、同居者の死別などにより一人暮らしになった方が 173 人、同居者の入院などにより実態として一人暮らしとなっている方が 19 人、合わせて 192 人を訪問する予定であります。

続いて、No. 5 「子ども・子育て支援新制度の推進」です。こちらは、幼児期の学校支援・保育や放課後児童クラブなどの地域の子ども・子育て支援を総合的に推進するものです。今年度の見込みとしましては、保育園 2 園、放課後児童クラブについては 2 施設が増加となっております。具体的には、昨年 4 月にときめき西に「ときめきパステル保育園」、新通西に「すいか小規模保育園」の 2 園が開園しております。また、ひまわりクラブについては、立仏小学校と五十嵐小学校の増設整備を進めております。

続きまして、No. 6 「NPプログラム、BPプログラムなど、児童支援講座の実施」についてです。こちらは、子育てに不安を感じている親同士が学ぶ講座を実施し、育児の不安、孤立感の軽減、仲間づくりを支援するものです。今年度の見込みとしましては、2 か月から 6 か月のお子様の親御さんを対象とした BP プログラムで 139 組、7 か月から 5 歳の子どもの親御さんを対象とした NP プログラムで 19 組、またコモンセンスペアレンティング講座で 12 人となっております、合計の参加者と組は 170 となっております。

続いて、No. 7 「西っ子ふゆまつり」についてご説明いたします。こちらは、雪国のためなかなか外で遊ぶのが難儀な新潟の冬を、子どもたちに楽しく過ごしてもらおうという事業です。資料中には 2,600 人の参加者を予定していると記載しておりますが、実は、2 月 17 日に開催されました。約 2,400 人の参加でした。なお、こちらの事業は、なかなか好評ではございますが、市の財源が緊迫した状況にあるため、次年度からは「ふれ！ふれ！西区ふれあいまつり」との統合により実施していくことを検討しております。

続いて、No. 9 をご覧ください。「子どもの学習支援事業」です。こちらは、生活困窮世帯の中学生を対象に週 2 回の学習会を開催するもので、新潟大学、新潟青陵大学の学生がスタッフとなり、高校進学を促進するものです。今年度の見込みでは、学習会の開催を 101 回、参加者が延べ 995 人としております。

それでは、資料をめくってください。3 ページの右上に基本目標 2 「安心安全に暮らせる地域づくり」記載してあるページをご覧くださいませでしょうか。

No. 1 と No. 2 は飛ばさせていただいて、No. 3 から説明いたします。「避難行動要支援者対策」です。こちらは、昨年度までは「災害時要援護者対策」としておりました。これが、国の法整備がございまして、名称を「避難行動要支援者対策」と改めさせていただいております。内容としましては、高齢者や障がいをおもちの方、あるいは要介護者など、災害時に自力で避難することが困難な方々を対象として、災害時用の名簿を作成し、地域の自主防災

組織や援護体制の整った自治会や町内会など援護する方に配布します。災害時に地域で支援する体制を確立するものです。こちらの今年度の見込みとしましては、自主防災組織の結成率が89.1パーセントとなる見込みでございます。

続いて、その下でございます。「障がい者の通所施設における夜間支援事業」です。こちらは、障がい者の通所施設において、当該事業所を使い慣れた利用者が、家族の急病など緊急時に限り宿泊の利用を実施するものでございます。こちらにつきましては、受け入れ可能施設が市内で全5施設、西区内ですと2施設ということで、昨年度から変更はございません。

それでは、少し飛ばします。ページをめくってください。4ページ目をご覧ください。

4ページ目の No. 1 でございます。「健康相談、健康教室事業」です。こちらは、保健師、栄養士などによる各種健康相談、健康教室の実施となります。今年度の見込みとしましては、開催数が400回、参加者が延べ8,700人となります。

続いて、その下「ウォーキング講習会」でございます。こちらは、ウォーキングの基本的な学習と実技、継続のための工夫について学ぶ講習会となっております。西総合スポーツセンターや黒埼体育館、また寺尾中央公園などで開催しております。「MYスタイルウォーキング」などの講習会の開催数でございますが、今年度は開催数でいきますと15回、人数でいきますと延べ500人の見込みでございます。

続いて、No. 3 「自ら進める健康づくり教室」でございます。こちらは、コミュニティ協議会などの地域の団体と協働して行う健康づくり事業となっております。体脂肪や筋肉量などの測定、栄養の講話など、そのほか運動実技、歯科指導を選択でき、希望に即した教室を開催しています。今年度は、12団体から依頼がございまして、延べ350人が参加の見込みとなっております。

続きまして、No. 4 「健康フォーラム」です。こちらは、みどりと森の運動公園で行われる「ふれ！ふれ！西区ふれあいまつり」で開催したもので、栄養バランス診断、個別指導、体脂肪測定などに188人の方から参加いただいております。

一つ飛ばしまして No. 6 をご覧ください。「地域の茶の間利用者のバスツアー」でございます。こちらは、地域の茶の間を開催されている団体向けの事業となっております。新潟市内の健康福祉に関する施設などを区のバスで巡り、併せて保健師等による健康相談、介護予防教室を開催するもので、高齢者の孤立防止、情報交換、交流の場となる地域の茶の間の利用者増加につながるよう取り組んでおります。今年度の見込みは、延べ19団体、参加者は延べ386人となっております。

続いて、No. 7 「高齢者の体操教室」をご覧ください。こちらは、老人憩いの家などで実施した教室の卒業生の自主活動を支援しているほか、自発的に結成された団体の支援を行っ

ております。見込みとしては、開催数が 32 回、参加者が 283 人となっております。

続いて、No. 8 「高齢者転倒予防教室」でございます。こちらは、転びやすくなったことを自覚する 65 歳以上を対象とした教室であり、平成 27 年までは民間委託で実施しておりました。昨年度からは、「ロコモ予防講座」として実施しています。「ロコモ予防講座」とは、ロコモティブシンドロームの略となっております。骨や関節、筋肉といった運動器の衰えにより、歩く、立つ、そういった運動機能が低下している状態でございます。これを予防する講座となっております。こちらについては、今年度計 6 回、参加者数は 160 人となる見込みでございます。

続いて、その下の No. 9 になります。「認知症予防教室」でございます。こちらは、認知症予防を図る教室となっております、開催数が 23 回、参加者は 374 人で行いました。

次の No. 10 「育児相談会」は、飛ばさせていただきます。

なお、このページでご説明した事業の多くは、生活習慣病予防の取り組みとなっております、今、新潟市では健康寿命の延伸に力を入れております。この健康寿命の延伸という言葉は、最近言われ始めたものであまり聞き覚えがない方もおいでかと思えます。私の説明が終わりましたら、健康増進係から少し説明をさせていただきたいと思えます。

それでは、説明を続けさせていただきます。次のページ、5 ページでございます。よろしいでしょうか。No. 1 「広報誌『西区だより』の発行」ですが、こちらは飛ばさせていただきます。

No. 2 「西区子育て情報誌『h u g k u m i (はぐくみ)』発行」をご覧ください。こちらにつきましては、今年度で 5 回目となります。年度内には 5,000 冊発行いたしまして、区役所、出張所、公民館、図書館ほか、子育て支援センターなどの施設に配布する予定でございます。

また一つ飛ばしまして、No. 4 をご覧ください。「障がい者基幹相談支援センター事業」でございます。こちらは、地域における相談支援の中核的な役割を担う基幹相談支援センターを西区役所内に設置し、相談支援体制を強化していくものです。こちらにつきましては、平成 26 年 10 月から実施しているもので、平日の朝 8 時半から夕方 5 時半まで、来所、電話、あるいは F A X、メールでも健康や医療、住まい、人間関係、保育、仕事など、さまざまな相談を受け付けているものです。今年度 12 月までの相談件数は 4,381 件となっております。

続いて、No. 5 「味な西の祭」です。こちらは、西区の障がい福祉施設が中心となり、普段の活動内容の発表や地域の方々と交流することを目的として開催していたイベントです。今年度からは、より多くの方から障がい福祉施設やその活動について理解を深めてもらうため、単独の開催ではなく、西区地域課で行っております「ふれ！ふれ！西区ふれあいまつり」

に参加し、新聞紙などを利用したワークショップや障がい福祉施設によるパレードを行いました。

続いて、No. 6「世代間交流促進、高齢者見守り啓発事業」でございます。こちらは、小中学生に対して、高齢者に関する認識を高めてもらうため、学校で高齢者疑似体験、認知症サポーター養成講座を開催するものです。今年度につきましては、中学校で1校、小学校で10校、計11校で開催させていただきました。

以上が、西区の健康福祉課が所管しております事業でございますが、先ほど申しましたとおり、「健康寿命の延伸」についてご説明させていただきますので、少し時間をいただきたいと思います。それでは、説明者を交代させていただきます。

(事務局：齊藤係長)

皆さん、こんにちは。西区健康福祉課健康増進係の齊藤と申します。私から、健康寿命の延伸について、少しお時間をちょうだいしましてご説明させていただきたいと思います。

お手元の資料、このカラフルな資料2をご用意ください。「重症疾患で急に倒れた方のうち、約6割は・・〇〇〇です」という資料です。こちらの資料をご覧になったことのある方はいらっしゃいますか。ありがとうございます。何人かいらっしゃって、ありがとうございます。実は、今年度、西区では、この事業をもとに健康寿命について皆様にご理解をいただき、ぜひ健康づくりに取り組んでいただきたいということで、地域を担当する保健師が中心となって地域の会議や健康講座の場、約110か所2,500人以上の皆様にお話をさせていただいていたところです。本日は、その内容について、少しかいつまんでご説明させていただきたいと思います。資料をご覧ください。

左上の図からご説明します。65歳以上の人の平均余命、65歳以上の方があと何年生きられるかという棒グラフになります。男性の全国平均をご覧ください。男性では17.23プラス1.51年、18.74年になります。女性は、全国平均で20.49年プラス3.31年、23.8年。65歳以上の方の平均余命がありますとなっておりますが、この男性1.51年、女性3.31年という青いところが、要介護2以上の状態となる期間と言われております。新潟市のものをご覧ください。新潟市の場合、65歳以上の平均余命の棒グラフを見ていただくと、全体の棒グラフが男性も女性も少し長いです。平均余命が長くなっているのですけれども、赤く囲んだところを見てください。男女とも、健康でない期間、要介護2以上の期間が長くなっております。新潟市民は、平均寿命は長いのですけれども、健康寿命が短いという実情があります。

その下の表を見ていただきたいと思います。こちらは、厚生労働省の調査によるものなのですけれども、要介護状態になった主な原因の表です。要介護になった原因の第1位は、総数を見ていただくと分かるように脳血管疾患（脳卒中）です。介護度というのは、ご承知の

とおり要支援1から要介護5まで7段階あります。要介護5というのが最も重度で、いわゆる寝たきりの状態と言われております。要介護度が要介護4、要介護5と重症になるほど、原因が脳卒中のものが多いたことが分かります。

では、左下の図を見てください。脳血管疾患なのですけれども、「乱れた生活習慣の積み重ねが原因です」とあります。食べ過ぎや運動不足、喫煙、過度の飲酒、ストレスなどの生活習慣の積み重ねによって、高血圧、糖尿病、脂質異常などの生活習慣病を発症します。これらの生活習慣のコントロールが悪くなっていきますと、血管の弾力性がなくなって傷ついて血液がドロドロとなって、血管が固くなって血流が悪くなると動脈硬化を起こし、心臓で血管が詰まれば虚血性心疾患、脳で血管が詰まれば脳血管疾患、糖尿病が悪化すれば合併症として腎不全などを起こしてしまいます。ちなみに新潟市では、平成20年から平成24年のデータでは、脳血管疾患が原因で死亡した人が男女とも政令市でワースト2位でした。それが、右側のグラフになります。1位は、浜松市だそうです。

では、右上の表をご覧くださいなのですが、食塩についてです。「食塩の取りすぎも脳血管疾患のリスクの一つです」ということですが、聞いたことがあるかと思えます。新潟市は、実は食塩の購入額が、全国の主な県庁所在地がある市、52市の中で第1位なのです。そのほかにも塩さけの購入額、塩干魚介の購入額なども第1位、味噌の購入額、カレールウ、カップ麺が全国第2位と、塩分の摂り過ぎの文化があるようです。皆様の食卓にも塩さけはけっこう上がると思うのですけれども、味噌汁やカレーなど、月に何回くらい食べますでしょうか。私はと考えると、もしかすると月に三、四回どころではないと思ったりするのですけれども、ラーメンなども週末になると食べに行ったり、私自身も振り返るところがありますが、皆様も恐らくあれっと思うようなところがあるのではないかと思います。

新潟市では、平成27年度と平成28年度に健康栄養調査というものを行いまして、塩分調査を実施したのです。実際に体の中にどれだけ塩分を保有しているかを見るために、尿中のナトリウム測定というものを実施したのですけれども、男性の8割、女性の9割が食塩を摂り過ぎているという実態がありました。食塩の目標が右側に書いてありますが、男性は一日8グラム、女性は7グラム、この数字はぜひ覚えておいていただきたいと思えます。

その下のグラフをご覧ください。新潟市民の平均歩数の結果です。新潟市民の平均歩数は、全国と比較して男女とも下回っています。今の時期のように、このように雪が降ると歩けないということもありますけれども、何と言っても車社会、皆さんもここに来るのに車で来られた方がほとんどかと思えますし、私どもも当然車で来ておりますが、市民の移動の7割以上がマイカー移動という実態があります。

生活習慣病を早く見つけるためには、毎年健診を受けていただきたいということが重要に



なってきますが、一番下の右下のグラフをご覧ください。これは、平成 26 年度の新潟市国保、後期高齢者医療制度、協会けんぽ加入者のすべて合わせた健診受診率です。市の合計を見ていただくと 36.2 パーセント、西区は 36.2 パーセントと同等くらいなのですが、3 人に一人しか健診を受けていないという実態があります。受診率の目標値には到底及ばないという実態なのですけれども、後でお話しますが、今年度はさまざまな受診勧奨対策をしました。ですが、なかなか簡単には上がらないという実態があります。一番下を見ていただくとおり、平成 24 年度から平成 26 年度の市国保、後期高齢者医療の医療機関にかかったレセプトと特定健診に結果を分析した結果、脳血管疾患、虚血性疾患、糖尿病合併症で急に倒れた患者のうち約 6 割が健診を毎年受けていないという実態が出ています。そこで、一番上の表題に戻るのですけれども、重症疾患で急に倒れた方のうち、約 6 割が・・・というのは、健診連続未受診ということになります。なぜ、健診の受診が必要なのかということ、今一度皆様方にもお考えいただいて、健診受診率の向上にぜひご協力をお願いしたいところです。

では、裏面をご覧ください。左側のグラフです。こちらは、新潟市内 8 区の健診結果になります。平成 26 年度の新潟市の国保、後期高齢者医療制度、協会けんぽの特定健診受診者 14 万人ほどのデータからの結果になります。

まずは、血液検査の結果からですけれども、左上のグラフをご覧ください。血糖値です。国保と後期高齢者医療制度については、ヘモグロビン A1c 言って過去 1 か月間の血糖値の平均を示す値なのですけれども、この値が 5.6 パーセント以上の人、それから協会けんぽは、空腹時血糖が 10mg/dl 以上の方がどのくらいいたのかというグラフになります。新潟市では 45.6 パーセントの方ですが、西区では 47.3 パーセントでした。血糖値の高い人は、西区は秋葉区、中央区に次いで多いです。右側の血圧をご覧ください。収縮期血圧が 130 以上の方の割合です。市では 40.9 パーセントですけれども、西区は 43.7 パーセント、血圧の高い人の割合は、8 区の中最も多いという結果が出ています。続いてその下、左側の脂質のグラフをご覧ください。中性脂肪が 150 以上の方の割合です。市では 21.1 パーセントですが、西区は 22 パーセント、江南区に次いで多いです。続いて、右側の 3 項目重複該当です。こちらは、血圧、血糖、脂質、この今までのものが三つとも高い人の割合です。市では 6.4 パーセントいるのですけれども、西区は 7.5 パーセント、8 区の中で最も多いです。

その下は、質問票から分かった生活習慣の調査結果です。左側の喫煙をご覧ください。「現在、煙草を習慣的に吸っていますか」という質問に「はい」と回答した人の割合になります。市では 17.4 パーセントですが、西区は 15.9 パーセントと、中央区に次いで少ないです。次に右側、運動習慣です。(30 以上)と書いてありますが、これは、「1 回 30 分以上、

軽く汗をかく運動を週2回以上、1年以上実施していますか」という質問になりますが、「はい」と回答した方の割合です。運動習慣のある方です。市では平均で29パーセントですけれども、西区では31.9パーセント、運動習慣のある人が8区の中で最も多いという結果が出ております。左側の下をご覧ください。飲酒頻度です。(毎日)とありますが、「お酒を飲む頻度はどのくらいですか」という質問に「毎日」と回答した人の割合です。市では28.7パーセントの方が毎日飲んでいるということでしたが、西区では28.2パーセント、秋葉区、中央区に次いで毎日お酒を飲む人が少なかったです。右側、食習慣です。「夕食後間食することが週3回以上ありますか」という質問に「はい」と回答した方の割合です。市では11.3パーセントでしたが、西区では10.5パーセントです。夕食後に間食する人の割合は、8区の中で最も少なかったです。

これらの結果より、西区は、血液検査の結果は他の区と比較してあまりよくない結果となっています。特に血圧の高い人の割合が最も多く、また、血圧、脂質、血糖、3項目がすべて高い人の割合が最も多いという状況です。半面、生活習慣はよい生活習慣の人が多いという結果がありました。この分析結果を受けて、西区では、よりよい生活習慣の人をさらに増やすための健康づくり事業と、血圧、血糖、脂質、すべてが高いハイリスクの人の重症化を予防するための健康づくり事業を実施しているところです。

右側をご覧ください。まずは、よりよい生活習慣の人を増やすための対策です。一番上が、特定健診・がん検診を受けましょうとなっております。新潟市では、新潟市国民健康保険、新潟県後期高齢者医療制度に加入されている人のほか、生活保護の人、職場等でがん検診を受ける機会がないと思われる方に、健診の受診券を毎年3月末と4月以降に国保に加入した人には5月末に、2回送付しています。特定健診は、保険証の発行元が40歳以上の人を対象にする健診であり、生活習慣病を予防するための健診です。先ほどこの受診が3人に一人くらいだとお話ししました。まずは、この健診を受診していただくことが生活習慣病予防の第一歩だと思います。

今年度は、受診率の低い中野小屋地区、黒埼地区をモデル地区として、平成26年から3年間未受診の人を対象に、アンケート調査を実施しました。また、訪問や電話による受診勧奨も行ったところです。アンケートの結果から、健診を受けない理由としては、通院をしているが、いつでも受診できるからが圧倒的に多く、次いで面倒だからという理由が多かったです。通院中の人も特定健診の対象で、治療している疾患以外の病気を早く見つけるためにも、ぜひ特定健診を受けていただきたいと思います。

また、今年度初めて未受診者を対象に、西区限定未受診者健診として一日でがん検診と特定健診を受診できる日を二日間設けて、昨年度未受診の人を対象にご案内をしたところです。

特定健診は委託医療機関で一年中受けることができますが、中には日にちを指定して案内したほうが受けやすいという方もいらっしゃいます。定員 300 人に達しています。1 回目は 2 月 17 日の土曜日に終了したところだったのですが、大雪で当日のキャンセルがありまして、130 人以上の方が受診されたところでした。がん検診は 70 歳以上の人は無料ですが、各がん検診の最初のスタート年を無料として、がん検診のきっかけとしています。また、健診を受診すると、インセンティブとして抽選で景品が当たるという受診者プレゼントも市では実施しています。市としてはさまざまな方向で広報して、市民の皆様健診を受診いただいて、健康づくりをしていただきたいと思います。

次に真ん中、区で実施している健康づくりの講座や相談会です。こちらについては、先ほど黒川係長からもお話がありましたので省かせていただきますが、このような講座も実施しております。そのほか、ここには掲載していないのですけれども、ハイリスクの人を対象とした事業を今年度から開始しました。ハイリスクとは、血圧、脂質、血糖がすべて一定の基準値より高い人たちです。その方たちを対象に、動脈硬化予防教室として「めざせ！血管しなやかスクール」というものを 2 回コースで 1 回、また健康相談会として「西区発健康アップ相談会」を毎月開催しています。相談会に来た人の中には、お医者さんはなかなかじっくりと話を聞いてもらう時間がないのだけれども、栄養士や保健師が自分の話をしっかりと聞いたうえでアドバイスをしてくれるからよかったという方もいらっしゃいます。

一番下をご覧ください。こちらは、市で実施している事業です。本日は詳しい説明を省かせていただきますが、もしお聞きになりたいことがあれば、問い合わせ先をお願いします。

以上、足早ではありましたが、健康寿命の延伸について、健診データの分析結果を踏まえながら、西区の取り組みをご紹介させていただきました。平成 29 年度は、健康寿命延伸元年として市としても取り組みをしてまいりましたが、健康寿命を延伸するという命題は 1 年で結果が出るものではありません。平成 30 年度も継続して皆様と一緒に健康づくりに取り組んでいきたいと思っております。よろしく申し上げます。なお、今回出ましたデータは、新潟市の平成 26 年度のデータを元にしてお話しさせていただきましたが、現在、健康政策室が平成 27 年度のデータを作成中です。3 月の末には新潟市健康寿命延伸計画「アクションプラン」の改訂版としてホームページ等にも公開されると思いますし、また機会がありましたら皆様にもお知らせできればと思います。よろしく申し上げます。

(五十嵐委員長)

ありがとうございました。それでは、続きまして西区社会福祉協議会からご説明をお願いいたします。

(西区社会福祉協議会：佐藤事務局長)

西区社会福祉協議会事務局長の佐藤でございます。

日ごろから、西区社会福祉協議会の活動につきまして、ご理解いただきましてありがとうございます。この場をお借りしまして、改めてお礼を申し上げます。

現在、国で「我が事・丸ごと」地域共生社会実現ということで、いわゆる地域で共に生きる社会づくりを達成するようというところでさまざまな施策が進められています。その一つに、西区で言いますと、本日の議題でございます「いきいき西区ささえあいプラン」の目標を達成するということが、西区での地域共生社会に一步近づくものと思っております。その実現のために、社会福祉協議会といたしましては、地域での助け合い活動などに対する地域づくりの支援、または支援が必要な方に対する個別支援、総合相談などの事業を進めているところでございます。今年度の取り組みにつきまして、具体的に事務局長補佐の五十嵐から説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

(西区社会福祉協議会：五十嵐事務局長補佐)

西区社会福祉協議会の事務局長補佐の五十嵐でございます。では、私から「第2次いきいき西区ささえあいプラン」西区全体計画の西区社会福祉協議会分進行管理について、資料2に基づきまして説明させていただきます。

資料2の2ページ目をお開きください。2ページ目につきましては、基本目標1「私たちが支えあい、助けあう地域づくり」につきましてNo.12からNo.23までの12の事業について掲載させていただいております。時間の関係で主だった事業、または変化のあった事業を中心に説明させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

No.12「友愛訪問事業」でございます。この事業につきましては、住民主体による見守り活動の一貫ということで、見守りが必要な高齢者やその孤立解消や安否確認などを兼ねて、地域のボランティアの方や民生児童委員等が自主的に訪問していただいている事業でございます。見守りが必要な方を、事前に社会福祉協議会へ届け出いただきまして、月一回、乳酸菌飲料、石鹸等を持って訪問しまして、声掛けをしていただいているという事業でございます。この事業、年々参加地区、実施団体、対象世帯数も微増ではございますが、増えているところでございます。今年度は、昨年比3団体、件数でいうと76世帯増えているところでございます。この事業でございますが、西区全体の約3分の2をカバーしているところでございます。西区では、各自治会や町内会がやるところが多くございまして、そういうところが西区の特徴なのでございますが、しかしながらまだやられていない地域もあるところでございます。今後、事務局としては、未実施のところにはいかに普及していくかということ課題にしなが、検討を重ねていきたいと思っております。また、今年度初めてのことでございますが、今週あったわけでございますが、この事業の実施団体による交流会を開催いたしま

して、参加団体等の情報交換を兼ねまして意見をちょうだいしたところでございます。

続きまして、No. 13 でございます。「おせち料理配食事業」でございます。この事業につきましては、歳末時、年が明けるころにおせち料理を配食するわけでございますが、西区におきましては、友愛訪問対象者につきましておせち料理をお配りさせていただいたところでございます。この財源につきましては、歳末たすけあい募金、市民の皆さんからいただく浄財の配分金をもとにして実施したところでございます。昨年度比で 12 食ほど増えたところでございます。

続きまして、No. 14 「敬老祝会助成事業」です。この事業につきましては、75 歳以上の高齢者の長寿を祝うというものでございます。自治会やコミュニティ協議会が中心となって企画をしていただくものでございまして、毎年 6 月までに企画をしていただきまして、申請をいただきます。そして、同年の 9 月から 10 月にかけて祝会を実施していただくものに対して、新潟市からの補助を受けまして、社会福祉協議会が窓口としてやっているものでございます。今年度は、昨年度比で 5 団体ほど多く実施したところでございます。

実は、この事業は、今年度をもちまして新潟市からの補助が終了する予定でございます。平成 30 年度からにつきましては、申請していただく窓口は新潟市に移行する予定でございます。今後、詳細等が決まりましたら、これまでやられていた実施団体等に詳細についてお知らせしていきたいと考えているところでございます。

それから、No. 16 でございますが、「元気力アップ・サポーター制度」でございます。この事業につきましては、高齢者の社会参加や介護予防を目的としている事業でございまして、高齢者が福祉施設などでサポーター活動を行っていただくことによりましてポイントを付与し、そのポイントが年間で最大に貯まりますと、新潟市の介護保険事業から 5,000 円還元されるという事業でございます。社会福祉協議会では、これらの事業を通じまして、またサポーターへの説明会や登録者の相談、支援、情報提供を行っているところでございます。年々この事業を利用したいという高齢者のサポーターの数も増えておりますし、また受入協力施設ということで、市内の高齢者施設、障がい者施設の数も増えてきているということでございます。

No. 17 でございますが、「地域の茶の間助成事業」でございます。この事業につきましては、身近な地域で気軽に集まり交流できる居場所づくりということで、開催する地域団体も増えてきているところでございます。平成 29 年度につきましては、社会福祉協議会では新潟市からの補助を受けながら、月 1 回タイプでは年額 3 万円の助成になります。また、月 2 回タイプでは年額 6 万円の助成になります。これらのところにつきまして、申請をいただいているところでございます。社会福祉協議会の窓口となっているところでは、71 団体

に事業を活用していただいているところでございます。そのほか、週1回タイプというところにつきましては、新潟市が申請窓口として助成していただきますし、先ほど黒川係長の話にもあったとおり、西区内で把握している茶の間の数は88か所でございます。従いまして、社会福祉協議会からの助成は受けないけれども、自主的にやっている茶の間等もあります。そういった茶の間等の実態を把握したり状況を把握するために、生活支援コーディネーターやこの事業担当が茶の間を訪問する中で状況の把握をしているところでございます。また、今年度は、年2回、茶の間実施団体の交流会を実施したところでございます。

続きまして、No.18「子育てサロン助成事業」でございます。この事業につきましては、子育てを抱えている方々の悩みの解決や社会参加、そういったところの観点から実施し、助成金などを通じましてそれらの団体を支援している事業でございます。今年度は、この事業の活用団体は2団体ほど増える予定でございます。また今年度は、子育てサロンに特化した交流会、情報交換会を2回実施する予定でございます。実際に子育てサロンのところを見学していただいて、その場で情報交換をしていただきたいということで、子育てサロンの活性化を図っていきたいと考えているところでございます。

少し飛ばさせていただきます、No.23でございます。「おもいやりのひとかき運動」でございます。この事業につきましては、12月から2月の3か月間におきまして、主要な場所に除雪用のスコップを配置させていただきながら、バス停や横断歩道であるとか、そういったところで使っていただきながら、高齢者の方、障がい者の方などが歩行しやすいようにということで、誰もが活動できる環境というところで使っていただいているところでございます。置く場所の選定につきましては社会福祉協議会が担当し、実際にスコップを置くのは新潟市が設置をするという役割分担になっております。年々設置個所を増やしているところでございまして、今年度は100か所置かせていただいたところでございますが、今回、非常に大雪が降ったという中で、今年度につきましてはこのスコップもけっこう活躍したのではないかと予測できるところでございます。

続きまして、3ページをお開きください。3ページのところでは、基本目標2「安心・安全に暮らせる地域づくり」ということで、No.5からNo.10までの6事業を掲載しております。

その中でNo.5でございますが、「夕食宅配サービス事業」をご覧ください。この事業は、概ね65歳以上で一人暮らし、または高齢者のみの世帯に対して、夕食を1食720円で契約していただきまして提供している事業でございます。この事業につきましては、新潟市の補助事業でございます。平成29年度につきましては数が少し減っているということでございますが、実はこの事業につきましては、他の民間業者による見守りを兼ねた宅配事業が充実し

ているという観点の中で、新潟市社会福祉協議会と新潟市で話し合いを進めてきまして、今年度をもって新潟市からの補助金を終了するようなことで動いていたところでございます。しかしながら、今年度契約をしていた宅配業者から、10月をもって取りやめにしたという申し出を受けたところでございます。なお、配食契約をしていた利用者への代替措置ということもすでにできたという中で、民間の配食業者に届けてもらうというような代替措置ができたということで、この10月末をもってこの事業は廃止という形で終了したところでございます。

続きまして、No. 6でございます。「緊急情報キット配布事業」でございます。この事業は、70歳以上の高齢者、または障がいのある方等で健康上不安のある方や地域で見守りが必要とされる方を対象に、病気や服薬、緊急連絡先などを記載できる情報用紙及びそれを入れる筒を、自治会・町内会をとおして配布している事業でございます。毎年秋ころ自治会・町内会にご案内いたしまして、対象となる方がおられますかということで、地域の見守り活動を兼ねて実施しているところでございます。そういう中で平成29年度は、217件の新規申し込みがあったところでございまして、配布件数の累計見込みを記したところでございます。

それからNo. 7でございしますが、「災害に対するボランティア研修」でございます。社会福祉協議会では、各区ごとにボランティアセンター運営マニュアルというものを作っております。その中で災害ボランティアセンターの設置運営研修会をやりながら、ボランティアセンターの候補地リストということもいろいろな関係機関との話し合いの中で定めているところでございます。平成29年度は、その中の一つの候補地、新潟国際情報大学でこの事業を実施したところでございます。なお、今年度は初めて各コミュニティ協議会や民生委員児童委員協議会の方々にも声掛けをして参加をいただいたところでございます。

続きまして、4ページ目をお開きください。4ページ目は、基本目標3「健やかでいきいきと暮らせる地域づくり」のところでございます。

No. 11でございます。「イオン社協のひろば」でございます。この事業につきましては、イオン新潟青山店のコミュニティひろばを会場に、公開講座を実施しているところでございます。市民の方々に分かりやすい公開講座ということで、健康であるとか、介護であるとか、趣味や生きがいなどをテーマとして、8月を除く年11回やっているところでございます。毎年人気がありまして、リピーターの方も多いのですが、このリピーターの方から人伝てに参加を呼び掛けてくれる傾向もありまして、実施を重ねてきているところでございます。社会福祉協議会としては、この事業をとおして社会福祉協議会の認識度アップにもつなげていきたいと考えている事業でございます。

続きまして、5ページ目をご覧ください。5ページ目につきましては、「みんなで暮らし

を支える情報の共有とネットワークづくり」でございます。No. 7 から No. 13 までの 7 事業を掲載させていただいております。

この中で No. 9 でございますが、「新潟市高齢者あんしん相談センター西」事業でございます。介護、暮らし、保険、住まいなど、高齢者に関するあらゆる悩み事に対して相談窓口を設置しますということで、平成 26 年 5 月に開設し 3 年 11 か月経過したという事業でございます。平成 27 年度以降は、相談件数も横ばいで続いてきたところでございます。また、平成 29 年度は、公開講座ということで西区で 2 回、西蒲区で 2 回開催したところでございます。

この「新潟市高齢者あんしん相談センター西」の事業は、4 月より統合されまして、今、新潟市八千代にあります総合福祉会館の中に「新潟市高齢者あんしん相談センター」という相談センターがあります。そこに統合される事業になりますので、よろしく願いいたします。

それから、10 番目でございますが「コミュニティソーシャルワーク事業」でございます。制度の狭間にある世帯、複数の問題を抱える世帯等に対しまして、専門職と連携を進め、地域の協力を得ながら課題解決に向けた支援をするという事業でございます。この事業についてですが、平成 29 年度は相談件数が減っておりますけれども、これは集計基準の見直しがありまして、平成 28 年度までは累計でカウントしてきたところでございますが、同じ方の相談等につきましては一本化した計算の仕方をしているところでございます。また、初回相談から継続支援にあたる件数も増加しており、西区社会福祉協議会から各関係機関に関係者とのケース会議等と呼び掛けている件数も増えているところでございます。

11 番から 13 番については、ボランティア活動等の事業を掲載させていただいております。11 番の「ボランティア・市民活動相談」の事業でございますが、こちらも平成 29 年度の件数が減っているということでございますが、この資料を作成するときに、実際に書面で整理が終わったものについて、その部分だけ掲載してしまったため、実際に件数は減ってきております。西区社会福祉協議会のボランティアコーディネーターの職員が、今年度の年度途中から早い時期に 1 名減となっていることから、3 人体制が 2 人体制でやってきたということで、今、実際に進んでいるところでございます。実際の相談件数は昨年度並みであるわけでございますが、まだ書面の整理等が残っているところで、この数字はもう少し増える見込みでございます。

併せて 12 番目、13 番目の事業につきましても、今年度は少ない職員の中で優先度の高い事業に対して実施してきたところでございますので、実際、開催件数が減っているということでご理解いただければと思います。



口早で申し訳ありませんでしたが、以上で西区社会福祉協議会の説明を終わらせていただきます。

(五十嵐委員長)

ありがとうございました。それでは、ただいま主だった取り組みについてのご説明をいただきましたが、皆様からご意見、ご感想等をいただきたいと思います。順番にお聞きしていきましょうか。では、資料1の1ページ目から順番にお聞きしていきます。1ページ目に関して、ご質問やご意見、ご感想等はございますか。

(本間委員)

相対的な意見を言わせていただきます。こういう会議とかミーティングとか研修とか、いろいろと何年もやっていて疑問を感じているのですけれども、確か、私、前にも言ったことがあると思うのですけれども、こういう場所というのはブレーストミングと言い、現実に沿わない、実情に合わないのを机上の空論と言い、この会議は机上の論理で非常に論理的だし、理路整然として整合性も高い、矛盾点も少ない、資料に基づいて多岐にやっている。皆さん、健康福祉課の方も社会福祉協議会の方もいろいろ一生懸命にやっていると思います。確か、知識や情報というのは議論化され、また体系化されていなければ役に立たないのですね。そして最後にやはり行動、実践することが大事だと思うのです。

だから、私は会議にいろいろ出て思うのですけれども、足りないのは実践と行動力ですよね。なぜ実践と行動力に及ばないかと言うと、それだけリスク、負担が大きいと思うのですよね。つまり、行動することによって負荷がかかるわけなのです。物事というのは大体そうです。一般的に対岸の火事という考え方をしていますよね。自分以外は他人事というか、その当事者にとっては重大事であっても、傍目から見れば所詮他人事でしかないわけです。割とそういう考え方が多いと思う。それらの事を一つの教訓とし、「他山の石」として、求めるだけでなくやるのが大事だと思うのです。でも、今ほど言いましたけれども、健康福祉課の方、社会福祉協議会の方、会議に出させていただいているのですけれども、皆さん、一生懸命にやっていると思います。ただ、議論することも大事ですが、やはり実際に行動することが大事だと思いますね。知っていてもやらなければ、知らないのと同じですからね。私はそういう考え方に基づいてやっており、まだ多々及ばないし、力不足ですが、やはり行動とか実践面に力を入れるべきだと思います。会議で議論し検証する事も最重要な事だと思います。

(五十嵐委員長)

ありがとうございます。恐らく本間委員が実際に行動されて、いろいろもどかしいたくさんされている中でのご意見だったと思います。その上で、今後高齢化がどんどん進んでいく中で難しさもあるのですけれども、何とか仕組みづくりをやっていこうという会がここだと

思いますので、ぜひいろいろなことで忌憚のないご意見をいただければと思います。ありがとうございました。

(酒井委員)

私は、西区の 15 コミュニティ協議会の中の一つの代表として来ている者で、これをどのようにコミュニティ協議会に結び付けていけばいいのかということを一生涯懸命考えていますが、大変難しいです。友愛訪問など、やっていることもいくつかありますけれども、これを各自治会に徹底させていくのも仕事なのかなと思ったり、コミュニティ協議会でできることは何だろうと思って、このたくさんある項目の中から探して、各コミュニティ協議会によって違うと思いますが、それぞれのコミュニティ協議会で精一杯できることは何かと見つけるのがすごく大変でした。

この取り組みの内容が大雑把に書いてありますけれども、もっと具体的に聞きたいと思うことと、もっと教えていただきたいと思うことがありました。それらはこの会議では無理なのかなと思いますが、ほかのコミュニティ協議会の代表の方もそれぞれ思いというものがたくさんあると思います。この会をどうやって結び付けていったらいいのか、いい方向にこの会ができればいいという思いがしております。

(五十嵐委員長)

ありがとうございました。コミュニティ協議会に何を期待されているのかというところですよね。それでは、事務局から何かコメントなりご回答をいただけますでしょうか。

(事務局：黒川係長)

いろいろなご意見、ありがとうございました。

まず本間委員から、いろいろ事業があるのだけれども、当然、足りない部分もあると思います。また、時間が経つにつれ、当初予測していなかったような問題が出てくることもあると思います。そういった部分に関しても、市役所、区役所として対応していかなければいけないという認識は我々も持っておりますので、これからいろいろとご指導いただければと思います。よろしくお願いします。

また、酒井委員から、市役所の事業と自分たちのコミュニティ協議会でやっていращやるものをどう結び付ければいいのかという質問、内容かと思うのですが、まず、この会議の主眼と言いますか、一つの目的は、情報交換の場というようにご理解いただければと思います。中には似たような事業もあったりしているのですが、まず、コミュニティ協議会の代表の委員というお立場で、市役所でさまざまな事業をやっている情報をこの場を借りてご理解いただければよろしいのかなと思います。また、逆に私どもも、この場でコミュニティ協議会が直面している問題とか、事業といったものを吸収していく場にしたいと思って

おりますので、コミュニティ協議会でやっていらっしゃる事業と市や区役所でやっている事業がぴったりとマッチングするという場もなかなかないかもしれませんが、それは一番最初にうちの課長が申し上げましたとおり、地域の力、これは今、市でも区でも非常に大事だということで認識しておりますので、なるべくマッチしていけるような方向にもっていければと思っておりますので、いろいろご指導いただければと思っております。回答になっていないなければ、申し訳ありません。

(本間委員)

もう一つ。100パーセントの支援を求められたら、その100パーセントの支援に応えなければならぬのか、それともある程度自助努力を求めて自助努力をしてもらう。私は、それも大事だと思っているのですけれども、確かに支援に100パーセント応えるのも必要で大事な事ですが、可能ならばやはり自助努力なくしての支援はあり得ないと思っています。でも、本当に困っている人だったら100パーセント支援は必要、まだ見込みのある方というか、やればできるという方に関してはやはり自助努力は認めて、無理のないよう頑張ってもらべきと思っています。共助、公助、いろいろ自助努力ありますけれども、私はそのように考えてやっています。

(五十嵐委員長)

ありがとうございます。いろいろな状況の方がいらっしゃるので、何パーセントかというのはとても難しいところだと思うのですけれども、その把握というところも重要な任務だと思います。難しいところだと思いますが、これに関して追加のコメントはありますか。

(事務局：黒川係長)

皆さん、お分かりかと思うのですが、市役所に福祉の制度がすごくたくさんあります。ただ、制度ごとにこちらで提供するサービスというものも多種多様でございますので、場合によっては100パーセントに近い制度を受けるような制度もあれば、もっと自助努力を前面に出してもらいたいという制度もあるので、これは一概に言えないと思うところです。

(五十嵐委員長)

ありがとうございました。ほかにご意見等はございますでしょうか。

個別の細かいところはあるかと思うのですが、先にも議題がございますので、一旦進めさせていただきますのでよろしいでしょうか。

(木村委員)

質問させてもらっていいでしょうか。

3ページの上から4番目で、「障がい者の通所施設における夜間支援事業」ということで、

受入施設が2施設と言われたと思うのですけれども、この施設がどこの施設なのか分からないので、教えていただければと思います。

(五十嵐委員長)

事務局、お願いいたします。

(事務局：山田係長)

健康福祉課障がい福祉係の山田と申します。お世話になっております。

施設名については一般に公表はされていないので、就労系の作業所ということで、西区では2件受ける態勢はありますが、実績としてはゼロとなっております。よろしくお願ひします。

(木村委員)

ありがとうございました。

(五十嵐委員長)

ほかのページでも、何かお聞きしたいこと、ご質問されたいことはありますでしょうか。いかがでしょうか。

では、先に進めさせていただきますので、また何かありましたら、最後にご発言ください。

それでは、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局：黒川係長)

それでは、議題(2)について説明申し上げます。

ちょうど1年ほど前、昨年度の第2回推進委員会におきまして、団塊の世代の方々が75歳を迎える2025年を目途に、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられる体制の構築を目指し、また介護保険制度が改正されたことと併せて、地域の支え合いのしくみづくりにおける介護予防・日常生活支援総合事業について説明をさせていただきました。

「住み慣れた地域で自分らしい暮らしを目指します」ということで、区単位では少々住み慣れた地域と言うには大き過ぎます。そこで西区では、区内を四つの生活圏域に分割し、それぞれの圏域に支え合いのしくみづくり会議を設置するとともに、その圏域の推進役となる支え合いのしくみづくり推進員を配置しております。

資料3、A4横のございます。一番上に「各日常生活圏域の構成」と書いてある資料です。お手元の資料は、前回の会議の際にお配りしました区内の高齢化状況についてご説明させていただいたものを加工したものでございます。一番上の欄が四つに分割した日常生活圏域となっております。その下には、その生活圏域に包含されるコミュニティ協議会を記載させていただいております。一例を挙げますと、一番左にございます「内野・赤塚・中野小屋圏域」、こちらは、内野・五十嵐まちづくり協議会、西内野コミュニティ協議会、コミュニテ

イ中野小屋、そしてコミュニティ佐潟、この四つのコミュニティ協議会から形成されているとご理解ください。その下以降は、各コミュニティ協議会の人口と、さらに下段の網掛けの部分に関しましては四つのコミュニティ協議会の人口を足したものを参考までに載せさせていただきます。

今回は、各支え合いのしくみづくり推進員の方々から、自己紹介と各生活圏域で抱えておいで課題や取り組みについて簡潔にご紹介していただこうと思います。委員の皆様、それぞれ所属されておいでコミュニティ協議会がどの生活圏域になるかをご確認いただいたうえでお聞きいただければと思います。

また、各コミュニティ協議会から選出されて本会にご臨席いただいている委員の方々の中には、支え合いのしくみづくり会議の構成委員を兼ねていらっしゃる方も多くおいでかと思えます。そのような方々は、もう知っていると思われるかもしれませんが、お隣の地区の取組状況について聞いていただくことも大変重要かと思えますので、ぜひ比較する視点をもってお聞きいただければと思います。

それでは、ここからは、西区の支え合いのしくみづくり推進員を務めておいで西区社会福祉協議会の加野さんに進行を替らせていただきます。

(西区社会福祉協議会：加野副主査)

西区支え合いのしくみづくり推進員の加野と申します。遠くからすみません。

私たち、支え合いのしくみづくり推進は、地域包括ケアシステムの中でも特に地域づくりの部分、資料4-1に地域包括ケアシステムのイメージというイラストがあると思えますが、このイラストの中でも赤い枠で囲った部分、これからの高齢社会に向けて地域住民皆が地域で安心して暮らせるように、元気な方はずっと元気で地域で暮らしていけるように、地域の茶の間などの居場所づくりや、困ったときには地域で助け合える地域づくりの支援をしております。

本日、追加資料として配布いたしました「支え合いのしくみづくり会議（協議体）と支え合いのしくみづくり推進員の配置」という資料をご覧ください。新潟市では、区の単位で第1層の支え合いのしくみづくり会議がございます。この区の単位の支え合いのしくみづくり推進員、推進役が、私、加野でございます。先ほど黒川係長の説明にもありまして、西区全体が一つで話し合いをするには、地域性も違うしなかなか難しいということで、包括支援センターのエリアでそれぞれの地域の第2層の支え合いのしくみづくり会議を開催しております。会議のメンバーは、コミュニティ協議会福祉部の方や、ボランティア団体、介護サービス事業所など、地域活動や高齢者のことについて詳しい方になっていただいております。西区では、平成27年度末に第1層支え合いのしくみづくり推進員が決まりまして、平

成 28 年度は1年かけてそれぞれの圏域の支え合いのしくみづくり推進員の選出を行いました。そして今年度4月より、四つの圏域それぞれで支え合いのしくみづくり推進員が決まりました活動が始まっております。

昨年度までは、主に推進員の選出についての検討ということで、具体的な地域課題の検討などという詳しいところまでは進まなかったのですが、推進員が決まった今年度からは、本格的にどのように地域に働き掛ければ支え合いのしくみづくりができるのかなど、それぞれの圏域で構成員の皆様からご意見をいただきながら活動を進めております。

それでは、各圏域の支え合いのしくみづくり推進員より、自己紹介と併せて、この約1年間の動きや取り組み等についてお話しさせていただきます。

(内野・赤塚・中野小屋圏域：和久井推進員)

私は、内野・赤塚・中野小屋圏域を担当しております和久井と申します。地域包括支援センター赤塚に所属しております。

私が担当している内野・赤塚・中野小屋圏域でございますが、内野中学校区につきましては、昔からの商店街ですとか新しい住宅地、また昔からの住宅地が混在している地域でございます。赤塚中学校区においては、昔から農業の方が多い地域でございます。そしてみずき野のような新しい住宅地もこの地域の中に入っております。中野小屋中学校区につきましては、主に稲作でしょうか、農業の盛んな地域となっております。

それぞれ農業の盛んな地域と昔から、もしくは新しい住宅地においては、地域の雰囲気と異なりますか、特色が違う点がありまして、農業の盛んな地域については、歴史と伝統があって昔からのつながりが強く、今もそのつながりで支え合っている状況が見受けられます。そして住宅地においては、若い世代の世帯も多いですし、自治会活動が盛んな地域もたくさんございます。

この1年間、それぞれの課題を考えておりましたが、つながりが強いと思っておりました農業の盛んな地域でございますが、あるそちらの地域の自治会長とお話をしたときに、そこは稲作農家が多い地域でございましたが、皆が農協を通してお米を農協に納めていた時代と変って、それぞれが好きなのところといたしますか、農協以外のところにも納めることができるようになったり、田んぼを自分たちができないから委託でほかの農家をお願いしたりということで、段々と皆で一緒に田んぼで顔を合わせるというようなつながりが減ってきたり、農協の寄りあいみたいなものもあるのだけれども、段々と出る人が限られてきているということで、農業を主体につながっていたつながりも段々薄れてきているというようなお話を聞いて、やはり昔からつながりが強いと思っていたところも、この時代の流れでつながりが薄くなってきているという感じを受けました。そして住宅地においては、新しいところは若い世

代が多くて、子どもさんを通じてつながりがあるところが多いのですけれども、昭和 40 年代や昭和 50 年代にできた住宅地などについては、高齢化率も増しておりまして、核家族化の波で高齢者の二人暮らしとか独居の方が多くいる面があることが分かりました。

そこで、そういった地域の課題についての取り組みでございますけれども、今年度は初年度ということもありまして、まずは地域包括ケアについてと支え合いのしくみづくりについての説明ということで、自治会や老人クラブ、そして茶の間にお邪魔したり声をかけていただいて説明をさせていただくというような、……というような意味合いでの活動をさせていただいております。特に中野小屋地域で毎年行われている敬老会にあたる「親子三代ふれあい会」というものがございまして、中学校に 300 人くらい集まって、あらゆる世代の人たちがお年寄りの敬老を祝うという会があって、そこに参加させていただいたのですけれども、非常に温かい気持ちになります。そして、そこでも説明をさせていただいております。

そういったことを繰り返しながら、今度はそれぞれの自治会で住民の方が主体となって、地域づくりを考えていこうという座談会まで進めていければいいと思っております。まだまだではありますが、来年度もこういうことを継続していきたいと思っております。

(坂井輪・五十嵐圏域：鈴木推進員)

坂井輪・五十嵐圏域の支え合いのしくみづくり推進員です。鈴木と申します。所属は、地域包括支援センター坂井輪になります。

坂井輪・五十嵐圏域ですけれども、私が担当している地域は、新潟市地震後に、働き盛りの世代の方たちが新しいお家を建てて引っ越して来られて、団地が形成されていったということが広くあります。それから、越後線沿いのところも同じように、そうやって少しずつ広がっていったという住宅地が大部分を占めているのですけれども、同じくらいのときに同じくらいの世代の方たちが移転してこられたというところで、その皆様が年を重ねて、今、その地域が軒並み高齢者のみ世帯がどんどん増えていっているという状況です。一方では、赤塚の委員と同じなのですが、農業が盛んだった地域に関して言うと、非常に高齢化が進んできて、私が最初に最初に入職したときにたくさんあった田んぼがどんどん住宅地になっていって、そこに新しい若い世代が入ってきているというのが広がってきています。そうした地域、自治会ごとにも格差というものがかかなり大きな状況で、高齢化率の高いところでは 45 パーセント近くの高齢化率を示している自治会もありますし、一方で 1.5 パーセントとか、10 パーセント以下みたいな高齢化率というところもありますので、本当に差が大きく広がっているということをこの 1 年で実感していました。

私は、平成 22 年に地域包括支援センターに配属になってから地域の中を回るようになりまして、また、法人の事業との兼ね合いもあるのですけれども、10 年ほど前から法人の自

主事業で地域の居場所というものをやってきたり、地域包括支援センターの機能強化担当と一緒に介護予防の場を広げていこうという取り組みで、今まで10か所以上の週一回やっている体操の集まりというものの立ち上げのお手伝いをしてきた中で、やはり集まる場があることがとても大事なのだということを本当に実感しているところです。

4年ほど前から、これは包括支援センターからの継続なのですが、自治会長を個別訪問させていただいて、包括ではそうした集まりの場をもつことの大切さというところご紹介させていただきながら、お手伝いできる場所があればお手伝いもするというご案内してきたのですが、今年度もそのようなつながりの中で1か所新しい集まりの場をつくるということができました。

ただ、推進員になって、本当に何から始めようかという迷いの中でやってきましたので、声がかかるのを待ってしまった部分が大きくありまして、来年度以降は、もっと自分からどんどん地域に出ていけたらと考えております。どこの自治会でも集まる場所がないということがかなり大きな問題になっているので、第一層の推進委員や行政の担当の方たちとも相談しながら取り組んでいけたらとも考えております。

(小針・小新圏域：山本推進員)

皆さん、お世話様です。私、小針・小新圏域の支え合いのしくみづくり推進員をさせていただいております、包括支援センター小新・小針に所属しております山本と申します。私は、資料の右上に4-3と書いてありますパンフレットに沿いながら、今の活動報告をさせていただきたいと思っております。

今、和久井さんはじめ、鈴木さんからも活動報告がありましたが、今年度4月から配属になりまして、本当に何をやればいいのか分からない、本当に助けて、助けてと地域の方によく言っていたという気がします。むしろ支え合いのしくみづくりではなく、支えられていた推進員だったのかなと思います。ただ、そういった中で、資料3の中で高齢化率なども書いてございますが、その数字だけでは計れない、地域に出向いたからこそ分かってきた現状、課題というところもございました。その現状、課題というところがどういったものなのかというところを少しお話しさせていただきたいと思っております。

小針・小新圏域のよいところということで、各所、多くの方からご意見をいただいたところなのですが、交通の便がよかったり、また地域福祉について一生懸命考えている方が非常に多いというお話をいただいた一方で、逆にその地域課題は何ですかというお話になったときに、地域課題についてすごく考えている方がいる一方で、やはり地域でやりたいという方のお気持ちであったり、なかなか若い世代を取り込むことの難しさ、そういった声が非常にたくさん聞かれましたし、小針・小新圏域といっても、コミュニティ協議会ごと、または自



治会によって本当に地域の差が大きく、地域の特性も含めて違いがあるということが分かりました。

資料4-3の4番に「協議体の開催」と書いてございますが、こちらは「支え合いのしくみづくり会議」の訂正となります。

支え合いのしくみづくり会議を、昨年11月29日と来月、3月2日に行う予定となっております。この支え合いのしくみづくり会議についても、本当に何をすればいいか分からないというところで、各地域に出向いて行ったときに、やはり地域で困っていることを吸い上げ、そして地域でやっている実践報告を聞きたいという声が非常に多くありましたので、地域での実践報告、加えてその中で意見交換、グループワークというところをとおし、11月と、そして3月を予定しているところです。

最後になりますが、資料4-3の左下に少しぼやけた人がいますが、まず私が、支え合いのしくみづくり推進員が何なのかというところであったり、私が地域のところで少し距離感であったり、何かマスコットキャラクターを作るといいかなということで、これは皆で考えたキャラクターになっています。私が山本大志ということで、聖徳太子にかけたマスコットキャラクターになっております。やはり、地域住民の目線に合った形で来年度も頑張っていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。本当に分からないことばかりの1年でした。ありがとうございました。

(黒埼圏域：宮田推進員)

黒埼圏域の支え合いのしくみづくり推進員をしております宮田大輔と申します。私、この西区4圏域あるうちの四つ目の発表ですので、特に新しい取り組みはないかと思うのですが、黒埼圏域の取り組みを報告させていただきます。

私も今年度4月からの活動になりまして、私自身は、鳥原の地域包括支援センター黒埼の中に事務所はありますけれども、地域包括支援センター黒埼の職員ではなく、この4月から新しく入ってきた職員になりますので、まずは顔を覚えていただくことが先かなと思いついて、訪問活動ですとかチラシを配ったりして、まずは顔を覚えていただくという活動をしていました。そうしましたら、何か丸くて覚えやすい顔なのか、黒埼の中を歩いていると、宮田さんと声をかけてくださる方も最近はいらっしゃるような形になっております。

黒埼の課題として、私が1年間集めてきたのですが、やはり生活上での困りごととして、買物ですとか通院での外出、それから最近ですと除雪、ゴミ出しといったような生活上の困りごとが聞かれております。それ以外にも、ほかの圏域でも聞かれているとは思いますが、茶の間の世話人ですとか、老人会、自治会の役員のなり手がなかなかいないといったような課題がよく聞かれております。黒埼の社会資源としまして、ご存知の方も多

と思うのですけれども、国道8号線沿いに買物をする商店ですとか医療機関が集まっております、逆に国道から離れていくと段々と買物する場所もなかったり、医者が遠かったりと、先ほどの生活上での買物、通院などの外出という課題がすごく浮き彫りになってきております。バス路線があるのですけれども、本数が少ないため、買物、通院に不便を感じている方がとても多いというイメージ、印象を受けております。

自治会ですとか、黒埼ではコミュニティ協議会をふれあい協議会と言っておりますので、ふれあい協議会の取り組みとして、すごく健康をテーマにした取り組みが多いという印象を受けております。カラオケですとか、輪投げ、フロアーカーリングをやられている取り組みが多いと思います。自治会ごとに聞き取りをさせていただきますと、自治会での行事がやはり少なくなってきたと聞かれているのですけれども、運動会ですとか夏祭り、餅つき大会、防災訓練とか、私からしてみるとすごくたくさん自治会の中で行事に取り組んでいるのだなと感じております。そういった敬老会、老人会、自治会の集まりのところで、支え合いのしくみづくりですとか地域包括ケアシステムの説明を今後もしていく必要があると、私自身感じております。

ほかの圏域にも重なることかもしれませんが、社会福祉協議会からの助成を受けている茶の間が、黒埼の中で私が把握しているところで12か所あるのですが、私が把握していなかったような、車で走っているとビニールハウスがあって、ビニールハウスを覗いてみると皆さんが揃って体操をしたりお話をしたり、そういった、こういうところにも集まる場所があるのだというようなところがけっこうたくさん見受けられておまして、そういったところも立派な居場所として今後もかかわらせていただければと思っております。

まだまだ把握していない部分、社会資源とか課題があるのですけれども、そういったものを把握しながら、社会資源と社会資源をつなげるような、結び付けるような活動をしていければと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

(西区社会福祉協議会：加野副主査)

最後に少しまとめなのですけれども、今ほどお話しさせていただきましたとおり、推進員は各地域、自治会ですとか地域の集まりに出向いて行って、まずはなぜ地域で支え合い、助け合いが必要なのかというところからお話しさせていただきながら、地域住民の方と一緒に考えてきております。ぜひ委員の皆様にも、ご自身や自分の地域活動、または地域活動をされている方の中で地域活動を進めていく上での悩みですとか、もっとこうしたいというような話等がございましたら、ぜひ支え合いのしくみづくり推進員にご相談いただいで、うまく使っていただければと思っておりますので、ぜひよろしく願いいたします。

また、この取り組みはまだ始まったばかりです。ぜひ、これから皆さん、うちの地域では

こういうことをやっているとか、これからこういうことをやりたいのだけれども、貴方たちも議論のメンバーのところと一緒に話し合えようということ、ぜひ誘っていただけると大変ありがたいと思いますので、ぜひ、今後ともよろしく願いいたします。

(五十嵐委員長)

支え合いのしくみづくり推進員の皆様、取り組みのご説明、自己紹介も含めて、どうもありがとうございました。それでは、今のご説明等に関しまして、何かご質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。

(松井委員)

私、黒埼の山田校区ふれあい協議会、今、宮田さんがおっしゃいましたが、コミュニティ協議会と言わないでふれあい協議会といいます。その松井と申します。少しお話しさせていただきます。

まず最初に、この説明資料は、平成 29 年度見込みという資料になっておりまして、見込みというのは、平成 29 年度は終わっていませんから見込みなのでしょうけれども、肝心な平成 30 年度に向けてというようなものは、やはりまだ代が開かれないというか、無理なら無理でいいのですが、平成 30 年度はこういうものをやりたいのだというような資料は、今の段階では無理なのでしょうか。

それから、いろいろお話がありましたが、我々委員は、このようにいろいろな情報をいろいろな機会にいただきます。ところが、これをどうやって地域の住民の皆さんにお知らせするかという方法は、実は私はないのでありまして、あったとしても自治会の役員とかごく限られた人たちが集まるという、固定化されたメンバーしか出てきません。本当に困っているのはそうではなくて、そういう人は聞かなくてもいいのですが、ほかの人たちをどうやって集めるか。もし、皆さん方、うちはこうしているというようないい意見がありましたら、出て来ない人を集める方法がありましたら教えていただきたい。

それからもう一つは、今回、雪が非常に多かったのですが、困ってくると弱点というか、自治会の弱点が見えてまいります。除雪にしましても、いろいろありますが、そのときに、やはり一番困っている人は家の中から出てきません。だから、我々も分からないわけです。ひっそりとしているのが困っている人で、慌てて出てきて除雪だと騒ぐ人は、皆がそうかと言って話し合いができますから助けられるのですが、一番困っている人は、実はひっそりとしているところが困ったなど。そういう点も、どうしたらうまくいくのかと。これは、私も分かりません。

それから、どうしても固定化してしまうのです。自治会の役員でも民生の役員でも、固定化してきて、出てくると役員にされたり、目立つと困るという人が非常に多くいます。だか

ら行かないという。だからこうやって、松井、お前が行ってこいというのは、私は目立ったわけではないのですが、無理やり周りからお前が行ってこいというような感じでございまして、その辺、そういう人だけではなくて、うちはこういうことをして活性化しているとか、若い人にも出てきてもらっているというようなお話がありましたら、参考にさせていただきたいと思います。

(五十嵐委員長)

ありがとうございました。今、さまざまご提案、お悩みみたいなことがお話しただけなのですけれども、今ほど推進員の皆様からいろいろな取り組みですとか地域の課題についてお話しいただきましたので、推進員の皆様から何か、今の松井さんのご意見等につきましてコメントがあればお願いいたします。

(西区社会福祉協議会：加野副主査)

支え合いのしくみづくり推進員の加野です。

今、松井さんから上げていただいた役員のなり手がなくて、会に出ていったら手ぐすね引いて待っていて役員にさせられるとかというのは、本当にどこの地域でも聞く課題だとは思っております。地域の茶の間の世話人とか役員のなり手ということについては、いかに裾野を広げていくか、役員が本当に固定化された人たちだけではなくて、月に1回くらい会合に出てもいいかなという人を少しずつ取り込んでいくことくらいしかないのかなと思うのですが、まさに定年退職して、仕事を終わって暮らしていく中で、趣味活動にはいそしむけれども地域活動には参加していない、そういう方々をどうやって地域活動に取り込むかというところは私たちも課題で、ぜひいい地域の取り組みがあれば教えていただきたいと思っておりますし、私たちもいろいろな地域を回る中で、ここの地域はとていい取り組みをしているというものがあれば、随時、皆様にも情報伝達していきたいと思っております。すみません。お答えになっておりませんが、役員のなり手については以上でございます。

(本間委員)

一般的に、出る杭は打たれる、物言えば唇寒しで、要するに余計なことをしなければ言われることも批評されることもないのですけれども、私はどちらかというと出る杭のほうですから、ある程度、自分では防衛策を持ち合わせていると思っております。でも、人さまが困っているときによかれと思ってやったことが、すぐく裏目に出て批判されるということが多々ありますね。そうかと言って別にそういうものを気にしていたのでは何もできませんので、多分、そういうこともいろいろとあると思うのです。何かやると人さまからいろいろ言われるとか、そういうことを気にしていたら仕方ないのですけれども、多分、そういうことも一要因だと思っております。だから、なかなか手がないのだと思います。

(五十嵐委員長)

皆さんでそういった悩みを、こういうことを言ったらこういう杭の打たれ方をされてしまったみたいなことを、情報交換というか、地域のリーダーの方たちで、悩み相談をするような場はあるのですか。

(本間委員)

ないですね。

だから、ストレスがすごく溜まりますね。そういうとき、自分なりのストレスの発散方法を知らないというか、やっていないと、本当に自分自身で潰れますね。否定してしまうとか。皆さん、役員をやっている方というのは、すごく行動力があって責任感もあっていろいろやっていらっしゃると思うのです。だから、多分、人さまのためにやってくれないかということになると思うのです。だから、責任感もあるから断り切れないし、私はそう思っています。村をよくしようという気持ちでやっていますから、皆さんもそういう気持ちでやっていらっしゃると思います。

よく、やって当たり前、何かあったら批判される、やり玉に挙げられるということが一般的。巷の出来事ですから。でも、それを乗り越えないといけない。一生懸命やっている方は大勢おられると思います。私も自分でやっていて、一生懸命やっているとは思わないのですけれども、自分なりに大変だとは思っています。

(五十嵐委員長)

そういうお声が聞けてよかったと思います。いかがですか。

(酒井委員)

私はまちづくりの役員にも出ていますけれども、うちの自治会で、今年のこの大雪で、福祉部長と会長が、二人でシャベルを持って玄関に足跡がついていないところを巡っただけなんです。それは自治会長会議で申し合わせがあることなのかどうか分からないのですけれども、非常にありがたいと思いました。そういうことが大事なのだなど。でも、勇気がいることだったよと、二人で回って恐ろしかったと言うのです。もし、足跡がなかったらどうしようかと思ったと。二、三、少し不思議なところがあって、ご近所に聞いたら、あの家は車庫から出入りしているから心配ないよと。そういうこともあるということで、こういう細かいことを発表する場が、私はほしいなと思っているところです。何をするにも、そういう細かいところを言い合って、下からどんどん意見を言っていけば、上の人が意見をまとめてくれる組織がいいのかなと思ったり、私は、これは西区では一番大きな福祉的な会議ではないかと思っているので、非常に荷が重く感じて出席しているのですけれども、上からの伝達と下からのそういう細かいものが一緒になれば、はじめて何かいい結果、資源が出るのではない

かと思っております。そういう意見を交換する場が、今までこの会ではなかったですね。交流会とか交換会、何でも発表できる、悩みも聞いていただける場があればいいのかなど。

それから、社会福祉協議会の方と包括支援センターの方、山本さんとか加野さんがいらっしゃいますけれども、非常に細かなことでも来てくださいます。茶の間でできるだけいろいろなこととお話ししていただく機会をつくってお願いしておりますが、皆さんも、もしでしたらどうか。人数としてはあのような人数しかいないので、実際に変な思いをされていると思いますし、今、No. 2の女性ではないかと思っております。今回、山本さんと渡辺さん、お二人は本当に細かく動いてくださいますので、皆さんもどうぞ活用されたいいいのではないかと思います。

(五十嵐委員長)

ありがとうございます。市の皆さんが、今みたいに細かなことからなかなか言えない悩みみたいなものを話す場というの、恐らくそういう場をつくろうと今画策されているのではないかと、先ほどの報告を聞いて思いましたので、ぜひ、お互いに頼りながら、どういうことでも吐き出せる関係性をつくっていくのが大事だと思いました。ご意見、どうもありがとうございました。

(前川委員)

坂井輪・五十嵐圏域の真砂小学校区の前川といいます。

この前、第2回のこの圏域の話し合い会があったのですが、区役所の方、包括支援センターの方等々、たくさんの方々の参加がありまして、その場では前の人の話のように細かいことまでお話し合うことができました。今、ここにいらっしゃいます、坂井輪中学校まちづくり協議会の小林さんであるとか、五十嵐小学校区コミュニティ協議会の木村さんであるとか、ものすごく一生懸命やっていたら、私のような何もしていないものが入って、たくさんのお話を聞かせていただきました。いろいろやっていたら、いろいろな指導を受けたり、細かいことまで何でも相談していただいたり、悩みを聞いていただいたり、ものすごく有意義な会議で、この圏域はこれからどどんうまくいくのではないかという思いをもちました。

(五十嵐委員長)

ありがとうございました。そういう希望が湧く場も必要ですね。ありがとうございます。その他、ご発言されたい方はいらっしゃいますか。よろしいですか。

(風間委員)

公募委員の風間といいます。

地域包括ケアシステムも国が押し進めているもの、一番住民主体のこの4人が紹介されて、顔が見られてとても嬉しかったですけれども、実際の活動として、皆さんにこういう活動があるのだということを知らせるということが書いてありました。それから、相談にのります、話し合いのお手伝いをしますと書いてあるのですけれども、実際には、もちろんご自身たちが雪かきを手伝うとか、そういうことはないと思うのですが、その資料4-4に書いてあるような、腰が痛くてゴミが出せない、一緒に出しておきますよという、これをやる方を探すというような、このように回るサイクルをつくるための、車で買い物をしてきますよという、こういう方をまわす、支え合いの仕組みをつくるきっかけというか、それを始めることなのですか。

(五十嵐委員長)

では、宮田さん、いかがですか。

(黒埼圏域：宮田支え合いのしくみ推進員)

黒埼圏域の支え合いのしくみづくり推進員の宮田です。

今、ご質問があったところなのですけれども、まさにこの前、うちの圏域でも会議をさせていただいて、仕組みづくりをつくる前に、まずはそのきっかけ、どうやって地域住民の方の意識を高めていくかというところをテーマに話し合いをさせていただいたのです。それを来年度の活動というところにつなげたいとは思っているのですけれども、個々では隣近所でゴミ捨てをしたよとか、買物を手伝ったとかという方はいるのですけれども、やはり支援する方が、例えば一人だけだったり、支援する方が高齢で自分の身体も心配でという方もいらっしゃるのです、そういったところを私たちが仕組みとして自治会とか、黒埼でいえばふれあい協議会というところでバックアップして、うまくしくみづくりをしていければというところで、来年度の活動をしていこうかなと考えております。すみません。具体的な活動ではないのですけれども、そのようなお答えで失礼いたします。

(五十嵐委員長)

ありがとうございました。よろしいですか。

(風間委員)

もう一つ。逆に、動く人を探すという、ボランティアの人を探すとか、NPOとか書いてありましたけれども、市の総合事業でも、地域包括ケアシステムと何か、関連というか、連携みたいなものはあるのですか。

(事務局：土沼係長)

ありがとうございます。私、健康福祉課高齢介護係の土沼と申します。

そうですね。この総合事業のからみというところがございますけれども、今は要支援1、

2の方の生活支援について、今までの全国一律のものから市町村独自のものからサービスを新たにつくっていきこうというのが総合事業になりますが、新潟市独自といたしますか、いわゆる基準緩和型というサービスは新潟市でも導入させていただいておりますし、この支え合いのしくみづくりの生活支援サービスというところも、ある意味介護保険の中の会計の中から補助金を出していきこうという形で、そういった形で進めていきこうというところで、大枠の中で進めさせていただいているものでございます。こういう回答でございますが、よろしいでしょうか。

(風間委員)

ありがとうございます。

(五十嵐委員長)

ありがとうございました。時間も迫っておりますので、一旦ここでご質問は打ち切らせていただきたいと思っております。

それでは、最後の議題となりますけれども、その他に移りたいと思っております。事務局から何かございますでしょうか。

(事務局：黒川係長)

それでは、来年度の委員会のスケジュールについて、少しお伝えさせていただきたいと思っております。今年度と同様に、7月と2月ころに開催を予定しております。また、近づきましたらご案内させていただきます。

また、コミュニティ協議会別の計画でございますが、今年度の取組状況につきまして、3月のなるべく早い段階でコミュニティ協議会の会長宛てに依頼させていただきたいと思っております。こちら、コミュニティ協議会の代表で出られている方々にも、参考に送付させていただきたいと思っております。4月から6月にかけて各コミュニティ協議会ごとに振り返っていただいて、6月中に区役所に報告いただきたいという流れで考えております。大体昨年度と同じようなスケジュールでございます。この報告をもって第1回目の委員会で皆様方から報告をいただきたいと考えております。その他については、以上でございます。

(五十嵐委員長)

ありがとうございました。それでは、来年度のスケジュールと今の資料提出について、何かご質問はございますでしょうか。では、何かありましたら、個別にお聞きになっていただければと思っております。

それでは、よろしければ、これで平成29年度第2回いきいき西区ささえあいプラン推進委員会を終了といたします。事務局にお返しいたします。

(司 会)



皆さん、大変長時間に渡りまして、ありがとうございました。本会議の議事録を公開するにあたりまして、後日、内容の確認を取らせていただきたいと思いますので、お手数ですがご協力をお願いいたします。

それでは、以上をもちまして本日の会議を終了いたします。大変ありがとうございました。